



特集

Major Articles

実習で ともに育つ 学生と教員

学生・実習指導者・教員の
「それぞれのリアリティ」

看護教育において、
実習が重要な役割を担うことは議論をまちません。
同時に、多くの先生方が特に悩まれる教育場面も、
実習指導ではないでしょうか。
実習指導は、教員が学生に教える、
という2者だけの関係をこえて、
患者やスタッフなど、
多様な人間関係が織りなす
ダイナミックな状況で行われています。
特に、実習場のスタッフとして学生指導に直接かかわる、
実習指導者との連携は重要です。
このような複雑な状況が、
実習指導における困難感の1つの原因と考えられます。
同じ患者の同じ状況においても、
学生、実習指導者、教員がその状況をどうとらえているかは、
それぞれの感覚、経験によって当然異なります。
本特集では、学生もまた1人の看護職であるという
看護職生涯発達学の視座から、実習をとらえ直すとともに、
学生・実習指導者・教員それぞれの
「感覚的なとらえ」を考えることで、
実習での困難に立ち向かうための取り組みを紹介いたします。
本特集が、先生方にとっても、
実習での学び、気づきにつながることを期待しています。